

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (著書) コンパス分子生物学-創薬・テラ ーメイド医療に向けて-	共著	平成 22 年 4 月	南江堂	薬学教育 6 年制のモデル・コアカリキュラムに準拠して、SBOを提示してポイントをわかりやすく解説した分子生物学講義用の教科書(250 頁)。(鹿志毛信広, 小俣義明, 牧野耕三, 和田戈虹, 前田正知, 川嶋剛, 竹田修三, 黒川昌彦, 湯浅修一郎, 和田守正, 宮澤宏)(荒牧弘範・大戸茂弘編集) 担当部分: 第 7 章 分子生物学技術 (担当頁: pp.111-123; pp134-136).
2 (学術論文) Induction of the <i>fatty acid 2-hydroxylase (FA2H)</i> gene by Δ^9 -tetrahydrocannabinol in human breast cancer cells. 《筆頭論文》	共著	平成 25 年 4 月	J. Toxicol. Sci. 38:pp.305-308. An Official Journal of The Japanese Society of Toxicology	薬物型大麻草主成分のテトラヒドロカンナビノールが <i>fatty acid 2-hydroxylase (FA2H)</i> 遺伝子を増加させ、乳がん細胞に分化を引き起こすことを見出した論文(4 頁)。(竹田修三, 原田麻里, Su Shengzhong, 岡島隼輔, 三好弘子, 吉田和貴, 岡本美子, 天本敏昭, 渡辺和人, Omiecinski CJ, 荒牧弘範) 担当部分: 共同研究につき本人担当部分抽出不可能。
3 (学術論文) (-)-Xanthatin up-regulation of the GADD45 α tumor suppressor gene in MDA-MB-231 breast cancer cells: role of topoisomerase II α inhibition and reactive oxygen species. 《筆頭論文》	共著	平成 25 年 3 月	Toxicology 305:pp.1-9 Elsevier	オナモミの成分キサントチンが、がん抑制遺伝子 GADD45 γ の発現を活性酸素種産生とポイズメラーゼ II α 阻害によって誘導することを示した論文(9 頁)。(竹田修三, 野口桃子, 松尾和真, 山口泰弘, 工藤太智, 西村肇, 岡本美子, 天本敏昭, 新藤充, Omiecinski CJ, 荒牧弘範) 担当部分: 共同研究につき本人担当部分抽出不可能。
4 (学術論文) Cannabidiolic acid, a major cannabinoid in fiber-type cannabis, is an inhibitor of MDA-MB-231 breast cancer cell migration. 《筆頭論文》	共著	平成 24 年 11 月	Toxicol. Lett. 214:pp.314-319 Elsevier	繊維型大麻草主成分のカンナビジオール酸が高転移性乳がん細胞の migration を抑制することを見出した論文(6 頁)。(竹田修三, 岡島隼輔, 三好弘子, 吉田和貴, 岡本美子, 岡田知子, 天本敏昭, 渡辺和人, Omiecinski CJ, 荒牧弘範) 担当部分: 共同研究につき本人担当部分抽出不可能。
5 (学術論文) (-)-Xanthatin selectively induces GADD45 α and stimulates caspase-independent cell death in human breast cancer MDA-MB-231 cells. 《筆頭論文》	共著	平成 23 年 6 月	Chem. Res. Toxicol. 24:pp.855-865 American Chemical Society (ACS Publications	オナモミの成分キサントチンが、がん抑制遺伝子 GADD45 γ の選択的誘導剤であることを示した論文(11 頁)。(竹田修三, 松尾和真, 八地健太郎, 岡島隼輔, 原田麻里, 三好弘子, 岡本美子, 天本敏昭, 新藤充, Omiecinski CJ, 荒牧弘範) 担当部分: 共同研究につき本人担当部分抽出不可能。
6 (学術論文) Δ^9 -Tetrahydrocannabinol and Its Major Metabolite Δ^9 -THC-11-oic acid as 15-Lipoxygenase Inhibitors. 《筆頭論文》	共著	平成 23 年 5 月	J. Pharm. Sci. 100:pp.1206-1211 WILEY	大麻主成分 Δ^9 -THC のヒト主要代謝物の Δ^9 -THC-11-oic acid が 15-リポキシゲナーゼの阻害作用を示すこと(代謝的活性化の一例)を見出した論文(6 頁)。(竹田修三, 蔣融融, 井本真澄, 戸田晶久, 繪柳玲子, 天本敏昭, 山本郁男, 渡辺和人) 担当部分: 共同研究につき本人担当部分抽出不可能。
7 (学術論文) Cannabidiol-2',6'-Dimethyl Ether, a Cannabidiol Derivative, Is a Highly Potent and Selective 15-Lipoxygenase Inhibitor. 《筆頭論文》	共著	平成 21 年 8 月	Drug Metab. Dispos. 37:pp.1733-1737. 75:pp.956-964 The American Society for Pharmacology and Experimental Therapeutics (ASPET Journal)	繊維型大麻草成分カンナビノールから 15-リポキシゲナーゼ(15-LOX)の強力かつ選択的阻害成分の創製に成功した論文。15-LOXは超悪玉コレステロールである酸化LDLを生成する酵素である(5 頁)。(竹田修三, 宇佐見則行, 山本郁男, 渡辺和人) 担当部分: 共同研究につき本人担当部分抽出不可能。
8 (学術論文) Interaction of cytochrome P450 3A4 and UDP-glucuronosyltransferase 2B7: evidence for protein-protein association and possible involvement of CYP3A4 J-helix in the interaction. 《筆頭論文》	共著	平成 21 年 4 月	Mol. Pharmacol. 75:pp.956-964 The American Society for Pharmacology and Experimental Therapeutics (ASPET Journal)	薬物代謝酵素 CYP3A4 と UGT2B7 のタンパク質間相互作用に関する部位を生化学的手法を駆使して明らかにした論文(9 頁)。(竹田修三, 石井祐次, 岩永恵, Nurrochmad A, 伊藤佑二, Mackenzie PI, 永田清, 山添康, 小栗一太, 山田英之) 担当部分: 共同研究につき本人担当部分抽出不可能。
※2009 年 4 月から現在までの主な業績を示す。				